

PROFILE



氏名

鈴木 厚(Atsushi Suzuki)教授

模擬授業タイトル

生命医科学入門

研究分野

分子細胞生物学

基本情報

生物物理学の研究からこの世界に入ったこともあり、「生命的な分子的基礎」を明らかにしたいという問題意識で研究を続けてきました。幸運にも20年ほど前にこの問題の本質に迫る「細胞極性」形成・維持の分子機構の研究を進める機会を得て、現在はその必然的な展開として微小管制御を介した細胞極性制御機構を研究しています。

受験生へのMESSAGE

大変な時代ですが、日々の現実世界自身が、生命科学のみならず様々な学問に関する生きた教材を私たちに与えています。しっかりと目を見開き、大きな心を抱いて、未来に広がる学問世界への歩みを進めてください。

SCHOOL OF SCIENCE・理学部



自然科学実験 Ic

医学部教員

この科目は、理学部で行われる実習のうち、医学部がある福浦キャンパスで医学部教員が担当する実習で、医理連携教育を象徴する授業です。2年次に履修する実習で、人体の構造と機能に関し、人体や動物を用いた実習を行って生命医科学の基礎知識を身に付けることを目的としています。実習を通して、ヒトまたはモデル動物を用いて生命医科学に必要な分子生物学、生理学、薬理学、病理学的手法を修得し、人体の構造と機能を理解することで3年次以降の学びがより効率的かつ有効になります。具体的には、薬物を与えたマウスの行動観察、人体の呼吸器機能の理解、ヒトゲノムを用いた分子生物学実験、人体の腎臓機能（尿生成機構）の理解、輸血・細胞治療部医師指導による血液型判定の基礎理解、正常・病理標本の観察実習といった実習を行っています。



自然科学実験 IIa

理学部教員

自然科学実験科目の主眼は、<ものづくり>を通して科学的な物質感を実践的に養うことにあります。すなわちミクロな分子構造を理解しつつ、マクロな量の物質を正確に扱うことができるよう、“頭”と“手”的両方で物質を理解できることを目標としています。ナノテクノロジーや環境調和型の技術開発のためには新規材料・物質を創製する<ものづくり>の技術が大変重要になります。本実験は、物理的・化学的手法を用いて有機化合物、金属錯体、無機化合物等の合成やその機能化のための基礎技術を修得することを目的としています。さらに有機化合物の合成、金属錯体の合成（光合成系を模した光増感型太陽電池の作成）、金属酸化物の合成との超伝導等の機能測定を行うことによって、手法を身に付け、研究室配属後の実験に備えます。